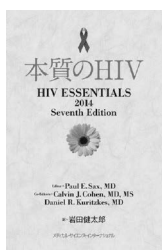


書評

[評者]

徳田安春

独立行政法人 地域医療機能
推進機構本部 総合診療顧問



本質の HIV

(原著：HIV Essentials 2014, 7th ed)

岩田 健太郎 訳

● A5 変 頁 280 2015 年

定価：本体 3,500 円＋税

[ISBN 978-4-89592-829-8] MEDSi 刊

HIV の標準診療のやり方がすべて網羅されている本

治療薬の開発のおかげで、HIV 感染症はいまやコントロール可能な併存疾患となった。しかも、新規感染患者は増加してきているので、感染者全体の数はどんどん増えてきている。もはや、感染症専門医のみが HIV 感染患者を診療するというのではなく、総合系の医師も HIV 診療に関与する必要性が出てきている。実際、総合系の医師は、急性 HIV 感染の診断、ニューモシスチス肺炎などの日和見感染症の患者の治療を行うことが多かった。今後は、ART 療法の導入に加え、HIV 感染の合併症治療、治療薬の副作用などの診断と管理などを、総合系の医師も行う必要性が出てきている。

そこで必要となるのは、標準診療を行うためのエッセンスが記載されているリソースであろう。それがこの本の役割である。これが手元にあれば、HIV の標準診療がただちに実施できる。検査について、適応、実施頻度、結果の解釈、耐性検査についての迷いを解決できる知識ベース。治療についても、第一選択薬の組み合わせと具体的な用法・用量、そして通院フォローの頻度、副作用や治療の失敗への対策など。また、他の薬剤内服中の患者についての薬剤間相互作用の注意点、曝露前後の予防、妊婦での感染対策などもすぐに

調べることができる。もちろん、急性 HIV 感染の診断アプローチに加え、さまざまな日和見感染症の治療法も表に整理されており、すぐに見つけ出すことができる。

原著は第 7 版で、米国では HIV 診療の標準的マニュアルとなっている。編集は、AIDS Clinical Care 編集長で、ガイドライン作成中心メンバーである Paul E. Sax 医師（ハーバード大学関連病院 Brigham and Women's Hospital HIV プログラム臨床ディレクター）。著者は、Sax 氏に加えて、ハーバード大学関連病院の 2 人の医師（Calvin J. Cohen 氏と Daniel R. Kuritzkes 氏）と、感染症一般の著作でも有名なニューヨーク州立大学の Burke A. Cunha 医師、そしてノースイースタン大学 PharmD（薬学博士号資格者）の David W. Kubiak 氏だ。この布陣だから、内容の信頼性は高い。

訳者は岩田健太郎氏。訳出の正確性と読みやすさでは定評がある。岩田氏は、日本における HIV の歴史をコンパクトにまとめた章を追加してくれている。研修医や医学生はその歴史を知ることができるし、ベテラン医師も振り返ることができる。HIV 感染を診断したときに、あわてることなく標準診療が直ちに実施できるようになるためにも、ぜひ総合系医師にもお勧めしたい。